

「子ども主体」の学習活動を推進しましょう！

西部教育事務所管内の各学校では、「子ども主体」をキーワードとして、地域や学校の特色を生かした学校づくりが進められています。

南牧村立南牧小学校では、総合的な学習の時間の指導を工夫し、児童がより主体的に問題解決に取り組めるようになってきました。以下、その工夫のポイント等を示しますので、参考にしてください。

南牧小学校（5、6年生）では、次世代を担う小学生が、主体的に生きていこうとする態度を養うことをねらいとして、総合的な学習の時間が行われています。本年度も、過疎化が進む南牧村の活性化に取り組む地域の方々と連携して、「南牧村の魅力を発信しよう」というテーマで学習を進めました。（全26時間計画）

☆ Point 1 既習内容を生かした追究課題設定の工夫 ☆

児童は、3年生の時から、総合的な学習の時間において、村の特色であるこんにやくや炭などを題材として学習を進めてきました。

その学習内容を生かして、5、6年生では、村の自然や行事、施設等の中から、児童が村の特色としてピーアールしたいものを決め、取材等を通して、そのよさをさらに深く調べることにしました。そして、村のよさをより多くの人に伝えるために、調べたことをリーフレットにまとめ、東京銀座のアンテナショップ「ぐんまちゃん家」で配布するというゴールを設定することで、児童の学習意欲が高まりました。

☆ Point 2 追究意欲を高める工夫 ☆

調べ学習では、インターネットで村のホームページを閲覧したり、観光客向けのパンフレットを活用したりするだけでなく、実際に現地を訪問して取材を行いました。取材の際の質問を考えたり、インタビューの練習をしたり、取材のポイントを取ったりと、すべて児童が計画しました。児童は、実際に取材して、集めた情報を整理したり分析したりすることにより、南牧村のよさを再確認するとともに、新たな疑問をさらに調べるなど、意欲的に学習に取り組んでいました。

次に、児童は、調べたことを基にピーアール用のリーフレットを作成しました。南牧村次世代担い手づくり支援協議会の協力で招聘した専門家（デザイナー）の助言を受けながら、より見やすい、より分かりやすいリーフレットづくりに取り組みました。専門家の助言を受けたり、各自が考えた内容や構成を工夫したりすることにより、自分のリーフレットがどんどんよくなるのがわかり、さらに追究意欲が高まりました。

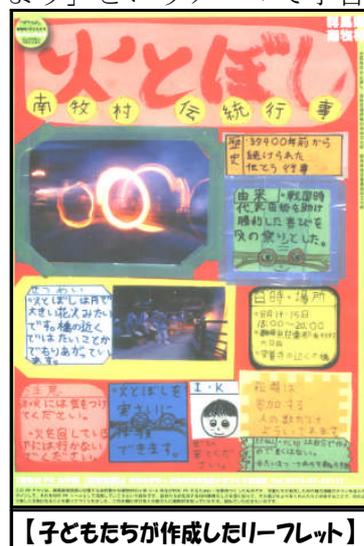
☆ Point 3 達成感を味わわせ、ふるさと南牧村を大切にする気持ちを高める工夫 ☆

児童は、修学旅行で訪れた「ぐんまちゃん家」で、道行く人々にリーフレットを手渡し、南牧村のよさをピーアールしました。たくさんの方との交流を通して、次第に相手を意識した伝え方ができるようになりました。また、リーフレットを受け取った人から、「行ってみたい」「楽しそう」などの感想をいただいたり、その様子がNHKテレビで取り上げられたりしたことから、自分たちが工夫して作成したリーフレットによって南牧村のよさを伝えることができたという達成感を味わうことができました。

学習のまとめとして村役場で発表会を開催し、村長、教育長、協議会の方々、保護者、村民など皆さんの前で堂々と自分たちの取組を発表しました。

さらに、村の行事である『火とぼし』に、自分たちが配布したリーフレットを持って来ている観光客を目にしたたり、NHKテレビを見て南牧村を訪れたという方から声をかけられたりして、自分たちの取組の成果を実感することができました。

児童は、このような主体的な学習を通して、課題を追究する楽しさを味わいながら、ふるさと南牧村を大切にしていこうとする気持ちを一層高めることができました。



【子どもたちが作成したリーフレット】



「ぐんまちゃん家」でのリーフレット配布



☆南牧小学校の取組は、第3回「ぐんまスクール・オブ・ザ・イヤー」小学校の部で最優秀賞を受賞しました。